

公共建築におけるSDGsに応える取組み

～県有建築物におけるカーボンニュートラル実現への取組～

2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする**カーボンニュートラル**の実現に向け、静岡県は「第4次静岡県地球温暖化対策実行計画」を令和4年3月に策定した。

静岡県の取組① 県有建築物の**ZEB化**

新築は**原則ZEB Ready以上**
(建築物のエネルギー消費量50%以上削減)

※ZEB:省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入(創エネ)で、建物で使うエネルギー消費量の収支をゼロにすることを目指した建築物

県有建築物を効果的かつ効率的にZEB化するため
ZEB化設計指針及びマニュアルを策定(令和3～4年度)



静岡県でZEBを達成するポイント

地域特性を活かした省エネ

- ★静岡県の気候特性を活かした設計
- ★県有建築物の規模の特徴を考慮した設計

継続した省エネ運用

- ★適正な設備容量の設定
- ★運用時におけるエネルギー管理の実施

ライフサイクルコストの抑制

- ★ライフサイクルコストを考慮した省エネ手法の選定

2030年度の削減目標55%に向けて ➤ 新築建築物の原則ZEB化を実行中

新築する県有建築物のZEB化状況: 完成5件、工事中7件、設計済2件



ZEB Ready達成: 茶業研究センター
(R4設計、R6工事完成予定)



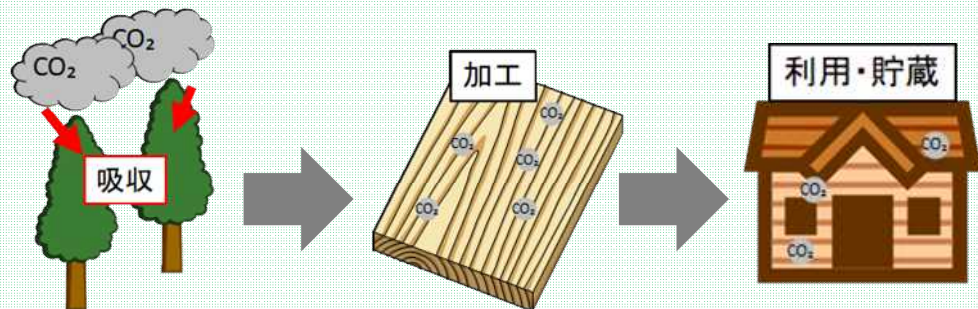
ZEB Ready達成: 清水西高校
(R4設計、R7工事完成予定)

公共建築におけるSDGsに定める取組み

～ 県有建築物におけるカーボンニュートラル実現への取組～

静岡県の取組② 県有建築物における木材の活用

木材は、森林が吸収した炭素を長期間にわたり、貯蔵出来ることに加え、木材の製造時のエネルギー消費が比較的少ないという特性がある。



県有建築物の木材利用事例

磐田学園機能訓練棟 (R5.2月完成)



内部は構造材をそのまま見せて、壁や床など手の届く場所にも木材を使用。

建物概要

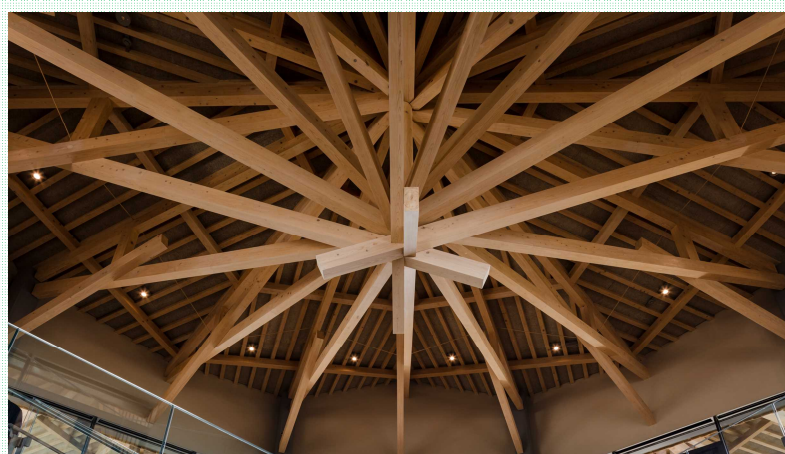
構造: RC造+木造 平屋建て
延床面積: 469.97㎡

木材使用量(天竜産材)

・杉、ヒノキ 94.8㎡

CO₂貯蔵量
※57トン

日本平夢テラス (H30.9月完成)



伝統的でシンボリックな木組みで構成された小屋組を富士ヒノキで表現。

建物概要

構造: S造+木造 3階建て
延床面積: 973.5㎡

木材使用量(オクシズ材)

・杉、ヒノキ 94.0㎡

CO₂貯蔵量
※63.9トン

※使用する樹種の種類によって計算結果は異なります。